

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

令和元年7月31日

鉏路市議会議長 松永征明様

会派名 自民市政クラブ

代表者名 草島守之



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受命者	草島 守之
出張先	千葉県旭市、銚子市、成田市
期間	令和元年7月22日～7月24日
用務	野菜工場、ガラスリサイクルプラント視察
調査(研修)結果等の概要	別紙参照
備考	

- 注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書(原本)とともに会派で保管すること。
- 2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

< 農業振興 > 有限会社かまや野菜工場視察（千葉県旭市）

加瀬 渉代表取締役は、既に二度にわたり鉏路市を訪問し、適地があれば鉏路地域進出を検討中！

有限会社かまやは、国内唯一のサンチュ専門会社

企業理念 1、お客様に喜んでいただく 1、感謝の気持ちを持つ
1、挑戦し続ける

- 品質にこだわり抜いて栽培した新鮮で美味しいサンチュを皆様にお届けします -

味では、最適温度、湿度、光、栄養を維持できるように「水耕栽培」を採用し、作物の成長を妨げる害虫や細菌を駆除する農薬の使用を最小限に。また、野菜特有のえぐみやクセも少ないのでサラダでも食べやすく、肉を巻いて食べると、肉の美味しさをより一層引き立たせてくれます。

品質では、ハウスの室温、日当たり、水温調整などを常に「徹底管理」し、一年を通して安定した供給を実現しています。収穫時には、栽培ハウスと工場をこまめに行き来し、収穫したサンチュは出来る限り早く冷蔵庫へ。サンチュが外気に触れる時間を最小限に抑え品質を落とさないよう心掛けをしています。パックに詰め、出来上がったサンチュは自社冷蔵車に乗せてすぐに出荷。新鮮で美味しいサンチュが皆様のもとへ届けられるよう努力しております。

真心では、スタッフが心を込めて、一枚一枚丁寧に「手摘みで収穫」をしていますので、傷や汚れは見逃しません。パック詰めも全て手作業で行い、美味しさと真心を込めたサンチュを皆様にお届けします。

<会社概要> 会社名 有限会社かまや 代表者 加瀬 渉
所在地 〒289-2514 千葉県旭市椎名内 1338
TEL 0479-74-7677 FAX 0479-62-3955
資本金 300 万円 従業員数 25 名

<沿革> 1988年11月 施設園芸を始める（ミニトマト）
1991年11月 水耕栽培を始める（サラダホウレンソウ）
1993年7月 サンチュ栽培を始める
1995年7月 第2号ハウス増設
1998年7月 第3号ハウス増設
1999年3月 有限会社かまやへ法人化
2002年7月 加瀬菜園八ヶ岳農場開設
2005年7月 八ヶ岳農場第2号ハウス増設

2008年7月 第4号ハウス増設
2012年7月 第5号ハウス増設
2016年3月 第6号ハウス増設
2016年3月 八ヶ岳農場第3号ハウス増設
2016年4月 作業場、事務所新築
2017年7月 第7号ハウス増設

<関連会社>

- 株式会社 加瀬菜園 〒408-0003 山梨県北杜市高根町東井出 768
TEL 0551-20-7156
- 協同組合 東総農芸 〒289-2503 千葉県旭市江ヶ崎 1200-5
グランディール1番館 201号
TEL 0479-60-0232

<加瀬社長の言葉>

当社は、温暖な気候と海と緑に恵まれた千葉県旭市にあり、平成11年の創業以来、水耕栽培によるサンチュ専門生産、販売をしてまいりました。お客様へ安全で美味しいサンチュをお届けするために、多様化する要望に対応するために施設の増設や設備の改良を重ね、おかげさまでここまで成長することができました。

お客様に満足していただける商品をお届けするには、お取引先様や従業員など様々な人のつながりが必要です。お客様はもちろんの事、流通、販売に関わる全ての人に喜んでいただくには、感謝の気持ちを持ち続けることが大切だと考えています。これは創業以来、社員一同心に込めてきたことです。

近年、農業を取り巻く環境は刻々と変化しており、安定生産はもちろん、多様な消費者ニーズにどのように対応していくかが重要であると考えています。また、サンチュは焼肉や他の食材を引き立てる脇役ですが、名脇役になれるよう日々精進しております。そして更なるサンチュの可能性に挑戦してまいります。

その可能性について、サンチュ粉末の機能性評価のための臨床研究を大学で進め、実用化に向けた取り組みを行う。

千葉県旭市の農作物（2016年度産）の産出額は2,732千万円（米420千万円、野菜2,061千万円）で県内1位、全国12位、畑耕地面積（2018年度）は2,400haとなっており、一方の釧路市の農作物（2016年度産）の野菜は31千万円で道内（179市町村）104位、全国（1719市町村）1,049位、畑耕地面積（2018年度）10,500haとなっており、当地域の状況を見ると耕地の拡大は可能であり、さらに気温の上昇などを考えると野菜の種類や生産条件を整備すると一層の生産量の増大は十分できると受け止めます。このようなことから農業振興策に野菜生産システムを確立したい。

有)かまや野菜工場視察(サニエ)



令和元年7月22日(月)



有)かまや 事務局にて加瀬社長と意見交換



社屋内の製品化室(一枚一枚丁寧につまみ取り収穫心の詰)



< 環境問題 >

7月23日(火) 10:00～ ガラスリソーシング(株)本社視察

環境対応のガラス、リサイクルプラントは国内最大規模の処理能力を持ち、ガラスの優れた特性をそのままに安全、無害に再生。

< 会社の理念 > 今やるべきことをやり、未来の道へ

私達の暮らしが豊かで便利になった反面、急激な経済の拡大によって自然環境に様々なほころびが目立つようになりました。

特に、大量の廃棄物がもたらす影響は大きく、資源と地球の許容量には限りがあることを私達は認識する必要にせまられています。21世紀も暮らしやすい生活を維持していくには、環境を守りながら円滑なリサイクル社会を築いていくことが欠かせません。

ガラスリソーシング株式会社は、当社の環境理念にも示してあります「もったいない」を基本理念とし、今後ますます拡大する廃棄物を「廃・資源」と考え、あらゆる環境社会に順応していくために様々な研究・調査等を重ねていきます。

そして、これからも静脈産業のパイオニアとして革新的な製品、開発、システムを実現化し、「廃・資源」に新たな価値を創造すべく「努力」「挑戦」を続け21世紀の環境社会に貢献していきます。

< 会社の概要 >

創業 平成10年3月
資本金 88,800千円
業種 廃棄物中間処理業

所在地・事業内容

本社・本社工場 11,390㎡(3,451坪) 千葉県銚子市春日町740-1

ガラス・陶磁器の破砕による中間処理事業(リサイクルガラス造粒砂の生産)

廃ガラスびん年間処理能力:日量400トン/年間12万トン

サンドウエーブG(リサイクルガラス造粒砂)販売事業

長山工場 33,000㎡(10,000坪) 千葉県銚子市長山町1839-7

ペットボトル、プラスチック製容器包装、缶類、金属くず圧縮梱包中間処理事業

廃棄食品、廃棄雑貨の分別による中間処理事業

動植物性残さ等の発酵による飼料化事業 ※飼料製造業者届提出済み

成田支店・成田工場 34,650㎡(10,500坪) 千葉県成田市新泉21-1

混合容器(廃プラスチック類、金属くず)の圧縮梱包中間処理事業、MX事業

成田第二工場 12,470㎡(3,778坪) 千葉県成田市新泉20

輸出事業

リサイクルガラス造粒砂全国フランチャイズ事業

山口県…(有)ヤマウチ 愛知県…トーエイ(株) 愛媛県…(株)エコシティ

秋田県…マテリアルリソーシング東北(株) 北海道…ネイチャーテック釧路(株)

許 可

本社工場

一般廃棄物処理施設設置許可：ごみ処理施設（破砕施設）（ガラス（ビン等）、陶磁器、瓦）

一般廃棄物収集運搬業等許可：破砕による中間処理（ガラス、陶磁器）

産業廃棄物処分業許可：破砕による中間処理

（紙くず、金属くず、ガラスくず、コンクリート及び陶磁器くず）

廃棄物再生事業者登録：空き瓶、ガラスくず、陶磁器くず

長山工場

一般廃棄物処理施設設置許可：ごみ処理施設（圧縮・梱包施設）

（ペットボトル、プラスチック製容器包装、缶類・金属くず）

一般廃棄物収集運搬業等許可：分別、圧縮、梱包による中間処理

（ペットボトル、プラスチック製容器包装、缶類・金属くず）

分別による中間処理（廃棄食品、廃棄雑貨）

産業廃棄物処分業許可：圧縮梱包による中間処理（廃プラスチック類、金属くず）

発酵による中間処理（汚泥、廃酸、廃アルカリ、動植物性残さ）

成田工場

産業廃棄物処分業許可：圧縮梱包による中間処理（廃プラスチック類、金属くず）

成田第二工場

中国輸出許可：A Q S I Q ライセンス（Licence No.A392160057）

収集運搬業

一般廃棄物収集運搬業等許可：銚子市、香取市、坂東市、横浜市、川崎市、横須賀市、川島町

産業廃棄物収集運搬業許可：千葉県、茨城県、栃木県、埼玉県、神奈川県、東京都、群馬県

新潟県、富山県

I S O I S O 1 4 0 0 1 認証取得 平成19年1月 本社・本社工場、長山工場

I S O 9 0 0 1 認証取得 平成27年11月 成田第二工場

役 員	代表取締役会長（創業者）	伊 藤 憲 一
	代表取締役社長	赤 坂 修
	取締役副社長	伊 藤 孝 展
	専務取締役	伊 藤 範 子
	取締役	柏 熊 武 彦
	取締役	近 藤 嘉 造
	執行役員	岩 田 耕 治
	監査役	高 橋 和 代

従業員 工場系14名、営業・事務系23名、物流系9名 計46名

ここ本社工場が行うガラス・陶磁器の破砕による中間処理事業において（リサイクルガラス造粒砂の生産）廃ガラスびんを受け入れ、日量400トン、年間12万トンの処理能力を要し、サンドウエーブGを生産販売事業を行う。これはガラスびん再資源化製品で、ガラス特有の「刺さる、切れる」を解消し、再生が難しかった色付きのびんやガラスくずを山砂等より優れた材料（粒径サイズ0～5mm）として生まれ変わらせるリサイクルを実現。

< 製品概要 >

- 環境基本法に基づく「土壌の汚染に係る環境基準」を満足した、安全に使用できるリサイクルガラス造粒砂です。
- 主原料は、廃棄物として市町村から排出されたガラスびんです。当社では、処理能力400トン/日という日本最大規模の施設で加工処理（エッジレス・粒度調整）しています。
- 自然砂と同等に使用できます。当社では、大手土木建築企業の協力により、軟弱地盤の改良工事工法である「サンドドレーン工法」・「サンドコンパクション工法」のパイル砂としての試験を行い、実施工の実績を有しています。また、路床材として日本初のガス管の埋め戻しに採用、サンドマット材、暗渠資材、防草対策、雨水貯留浸透施設等の土木資材として使用されています。
- 国土交通省の「新技術情報提供システム」－NETIS－登録された製品です。
同システムは、公共事業における新技術活用のためのデータベース。
登録番号：(旧)KT-010157-V
- 「エコマーク商品限定」を取得しています。 認定番号：第08 131 011号
- 6省後援 ※第2回エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞（優秀賞）受賞製品です。
※財務省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省

このような処理方法と再資源化を釧路地域でも取り組みができないか研究してみたい。

現在 海洋プラスチック問題が世界的に注目される中、プラスチックとの関わり方を見直すことが求められています。

世界で1950年以降に生産されたプラスチックは83億トンを超え、うち63億トンがゴミとして廃棄されこれらのリサイクル率は9%にしかありません。回収されたプラスチックゴミの79%が埋め立てあるいは海洋などへ投棄されていると考えられます。現状のペースで見ると2050年までに120億トン以上のプラスチックが埋め立て・自然廃棄されることから一層の環境汚染が進行することとなります。

これに対し中国は2017年末で廃プラスチック類の輸入を禁止や、EUのプラスチック戦略をはじめ世界各国ではプラスチックの資源循環への関心と取り組みが高まっています。

国内の現状は廃プラスチック発生量940万トン/年で全廃棄物の約2%を占め、2013年時点のリサイクル率は約25%、熱回収率が約57%、未利用・焼却埋め立ては約18%となっています。中国の廃プラスチック輸入禁止前の日本が中国に輸出していた量は約150万トン/年で、現在はその分を含めマレーシア・タイ・ベトナム・台湾などに輸出先は変更されていますが、これまでに見合う規模とはなっていません。

さらに今後は東南アジアの廃プラスチック輸入は、規制の強化や全面禁止の動きが出ていることから国内で資源循環する体制づくりは急がれることと受け止めます。道内はじめ釧路圏域の動向・実態を把握し、廃プラスチックの処理方法の改善をはじめ資源循環に向けて時代背景に見合った仕組みづくりを整えていきたい。

ガラスリソーシング(株)本社

リサイクルガラス造粒砂生産工場

令和元年7月23日(火)



ガラスリソーシング(株) 成田工場

混合容器(びん・缶・ペットボトル)の自動選別処理ライン

